

繪本
豊臣
勲功
記

五編
四

遠13
2209
44



陽 遠 13 特
冊 2209
卷 44

繪本豊臣勲功記五編卷之四

目錄

秀吉以謀南條小鴨與糧

屬 直家託孤

織田殿父子征食田猪頼

屬 諸所落城

繪本豊臣勲功記五編卷之四



繪本豊臣勳功記五編卷之四

江戸 八功舎 徳水刑補



秀右以謀南條小幡與糧属直家統統
 面水の陣ハ小人の西作中一却之欲に軍威を奪えり青水の陣ハ英
 雄の討議にして自軍の神駿を固く合戦のりて後利あり
 實に名士とる在川元春必死を命じて陣を結ぶに茶の土煤之重代棚
 後の川の橋を以て裁り自軍とてつて戦場に進むを命じし退くを戒
 めたりし。兼二面より并馬野山の地形と謂ハ左ハ渺たる濱海小幡
 石臥嵩の浪ふ穿これ右ハ城とる岩岑聳え有道の橋津の大河あり
 して容易渉るを命じし。只一條の橋ありしゆども以て裁たむを往來の
 途にこれがより七千餘人必死と思決ける由命今々發勅ハ最にけ

り。然やふ羽柴秀吉の秋のうちに、糧運結の準備をすし
 め、曉き十一月上の二日、卯の央より雪降出る。胸小秀吉隊を懸し、今
 にも段々、葛もふ態を顯す。別小一万の兵士小倉に、小膳左衛門進元
 清が懸ちしる。岩倉の城と南條伯耆守元徳が居城する。羽柴の取
 一を糧を納させたる。毛利家枝塞の兵士、皆へ眼茶これを見て、といふも。
 秀吉の大軍、猛威を振ひ、今にも進る様なり。これ小怖れて、後
 戦せ、遠圖を始し、思の趣小を糧あり、運納たり。秀吉、今も氣
 煩あり、先隊の備勢を退收し、指揮小随い、前隊、次隊に、去せ、操
 收し、吉川の陣小、秋茶より、食戦死せ、と覺おる。當夜の、し
 も、咽り、中し、夜の曉去を待盡し、卯、矢を、く、なる、ふ、小、羽、柴、の、備
 勢、次、隊、を、う、つ、と、隊、伍、を、操、下、り、成、祝、て、と、も、と、將、軍、奉、を、振、り、

午、る、頃、中、を、も、使、く、と、待、た、れ、ども、款、を、更、小、敵、く、出、せ、兵、糧、を、と、て、
 取、城、へ、去、後、の、中、に、運、糧、す。其、幸、を、做、果、せ、た、れ、ば、幕、び、退、陣、し、る
 也、名、吉、川、勢、の、案、に、想、遠、し。又、多、ハ、兵、糧、を、納、ん、と、あ、小、政、下、る、様、を、し
 け、る、もの、り。斯、か、め、く、と、款、ま、す、と、あ、毛、禰、懐、み、れ、と、罵、れ、ども、今、更、と、云、れ
 中、も、も、く、只、徒、空、に、款、陣、を、既、拒、て、在、た、り、な、る。滑、り、な、る、程、に、秀
 吉、八、羽、衣、石、の、鼻、小、伎、つ、さ、せ、る。先、隊、の、勢、を、退、收、せ、退、陣、せ、ん、と、あり
 なる、血、氣、の、勇、十、倍、本、意、を、失、ひ、い、ぬ、此、中、七、我、も、六、捕、利、十、分、なる
 その、成、み、さ、う、軍、を、退、す、に、や、と、罵、る、もの、あり、な、る、ふ、と、秀、吉、喘、る、自
 己、を、制、し、て、顔、正、し、く、若、て、曰、く、款、い、七、分、自、方、の、四、万、堵、く、自、方、の、他、の、理、を
 得、く、此、山、上、より、繩、筋、を、懸、利、の、必、定、か、り、ぬ、危、な、れ、ど、自、方、も、大、軍、積、
 亡、ま、す。吉、川、勢、の、案、な、る、れ、ども、人、の、和、を、得、く、死、不、畏、の、志、なり。堵、て

秀吉
謀略を
岩倉
羽衣の
兩城
兵糧を
贈る



豊臣記五編卷八十四



豊臣記五編卷八十四

有路の橋を巧裁至背水の陣小覚期を以て死地に向て生滅未む
 然るれば一騎か十騎小當らん。をきせりて素慮バ自去二万も戦死
 一實に小利大損の合戦なり。縱令元春を敗ればとて中國平均
 とつふも所は殊小ハ輝元隆景倭南方の諸勢を引率して雲州
 馬田中を去馬とと注伸ありてられを駭乘倘吉川と一隊小あふ吉兵
 一個も生るの道中。無量程慮の合戦ハ將之をの慎むところを
 汝保るるに勇氣に流り軍事に構ふことなれは歳ハ速地に陣
 陣なり。未春振て征伐もとも運うと。事十分は満る胸ハ異それなり
 生むるあふん。堅固の鳥取を攻陥し。固備を平治せし事ハ後小後
 に過分の功とふ。これを以て各信に明天ハ陣陣と決着せよ。それ
 小治さるる時順安家政預るるをりる不なれば三子餘騎を徳領し將衣

岩倉直城の杖翼となりて吉川勢に對陣せよと計議を付與り。十一
 月六日とて總軍を繰りて馬野山と退拂ひ秀右三つら敷廻し
 る。深く然と退陣しなれば吉川勢も大事を執り退段もせが勅了
 り。形ありなれば元春も死地を出たる意味しつは地小在ても益なりと
 久。杖寨に去士を残り馬野山の陣を退去なり。然るに荒前守秀
 吉ハ伯州の地を退拂ひ那波に帰陣せんむるところへ。後前荒前
 到来して淳田直家重病小犯され危さるるを告る小周て直地
 小備前へ發是せられ墨山の城小到りて直家が病を訪ひけし。ハ
 和泉吉久又欽悦荒前守成請り迎其懇切を謝し。因州平治
 の悦飲う。軍功を威稱して後我存命の期ありて。終焉直地
 にありぬ。直地ハ家督の詞状ハ出。養子與を希。基家ハ既小



豊臣五郎左衛門

五



命期を
量りし
浮田直家
八郎丸を
秀吉に
託す

豊臣五郎左衛門

四

將溪小我死す。嫡子有りて八郎。八郎未幼年。少く伎倆の國を總
 領する。こと覚心なり。こまごまの事を且夕々懐煩ひ在る。時境荒川
 多うう傷をれ。こと。雀躍するま。款をく。怖く。我没後。息子を
 愛憐し。むと。百生之窮の欣情なり。と。傾騰して。情をくれ。秀吉も
 其心中をありひかり。やとく不使の釋あり。と。誓を起し。深く謀受
 一。顔て。實子の八郎。九。先年。浮田。人。笑うて。秀吉の子にありけ
 るが。遠道。出陣のうらにありて。直家。病氣と。聆る。秀吉。これ。値
 偶せん。と。目今。遠城。へ。使ひ。くる。也。名。即。地。八。郎。を。呼。出。し。又。又。對。面。か
 ざりて。惹び。垂。家。小。將。を。く。つ。ふ。り。足。下。心。を。安。ん。ど。又。八。郎。九。の。釋。小
 かい。く。ハ。吾。懇。切。小。我。を。て。家。名。を。續。せ。ま。し。と。し。努。力。暗。小。我
 ら。ふ。す。と。三。深。切。見。え。く。重。せ。く。六。直。家。滿。心。を。寄。傾。け。欣。悅。する。と。

瀝り。と。呼。希。有。信。惠。に。こ。を。是。下。の。指。南。小。被。受。は。呂。望。管。仲。を。師。と
 する。小。將。を。嫡。兒。が。大。孝。乃。將。が。秋。來。謝。する。小。わ。と。く。何。か。し。や。よ。ハ
 郎。向。後。百。年。の。死。子。を。承。す。を。荒。川。の。恩。を。忘。る。と。く。又。と。も。ま。ま。ひ。師
 とも。あり。と。く。序。時。も。深。意。を。添。ひ。と。く。と。亦。宰。家。孝。小。我。と。曰。我。没
 して。の。後。ハ。そ。を。荒。前。守。が。指。揮。小。隨。ひ。可。從。背。く。と。と。な。れ。と。惹。び。秀。吉
 け。う。ち。對。ひ。吾。兒。八。郎。雅。さ。や。急。小。い。ま。と。く。字。を。号。せ。り。し。が。顔。く。六。是。下。の。一
 字。を。賜。ひ。直。一。く。号。稱。の。を。せ。り。と。を。と。小。秀。吉。共。を。と。く。と。然。バ。而。も
 小。任。ま。と。と。く。秀。の。一。字。を。德。興。八。郎。秀。家。と。稱。せ。たり。然。し。て。翌
 年。天。正。十。年。の。正。月。九。日。日。と。あり。と。と。と。直。家。行。年。又。十。三。歳。病。の。床
 に。卒。去。せ。り。荒。前。守。約。小。遠。と。く。秀。家。と。て。家。督。を。續。し。め。天。正。一。統
 小。治。く。ハ。秀。家。と。美。門。子。任。せ。り。め。と。六。卷。藏。に。加。へ。り。

時に山陰道の探題三任中
 他書因別を載し候こと

佐々木孫三郎長七郎 備前守秀吉の園山の城をうらぶ。不日に播磨姫
 路に降陣し。安土小使者を遣はして。園山平治を延伸し。されば信長
 公より檢使として。池田信輝の嫡子勝九郎信之を姫路より。軍勢武功
 の漸貴威と次序をとりて。法州を平治せし。の龍意なり。秀吉これ
 有り。長に軍事の疲勞も厭はぬ。同十月十七日。七百餘騎以て。法路
 へ推進せし。城へ使者を遣はして。降参の事を初めし。丹波阿波法
 路の兩國へ原素三好の領地をば。安土殿の還服せし。然るに三好
 の一族三好山城守康長は。先年より。秀吉に降服し。信長を降参し
 て。頗功勞あり。そのまゝ。一昨。秀吉の甥。秀次。姉の秀吉の
 中村孫助。を養子として。三好孫七郎と稱す。其後。又。孫七郎。も。三好と名の
 らせ。三好武藏守。入道として。一階。居すと。稱すと。号をある。の嫁。故。阿波。成。り。七。秀。吉。在。康。

長熟懇みれば。遠達法州征伐にも。案内者として。伴ふ。則。地。秀。吉。指。
 圖して。國人衆を降参せしむ。これより。大。軍。合。戦。せ。し。む。七。羽。目。小。
 堀。根。元。中。小。統。く。由。良。の。城。主。安。宅。河。内。守。と。し。り。の。あり。が。我。意。に。播。
 磨。く。敵。討。し。け。ま。池。田。孫。九。郎。と。討。議。を。合。せ。藝。地。に。攻。起。る。不。と。
 小。忽。地。降。参。に。送。び。た。れ。ば。これ。を。件。して。法。州。一。圓。小。平。治。す。十二月二日。
 秀吉諸軍を遷徙せし。播磨姫路へ。帰。城。あり。同。月。廿。日。歳。暮。の。新。礼。ま。
 じ。舒。ん。と。それ。く。軍。使。お。び。さ。し。て。廿。二。日。に。安。土。一。着。を。内。府。に。附。任。長。右。
 羽。に。吹。込。し。か。菅。若。九。右。衛。門。堀。久。右。衛。門。を。遣。は。し。て。秀。吉。に。命。せ。さ。る。や。
 う。今。年。播。磨。の。軍。勢。を。殊。と。も。せ。び。て。奇。特。の。志。動。信。長。長。統。は。堪。べ。か。
 ら。ぬ。今。の。昔。の。本。下。り。に。明日。饗。宴。を。賜。ふ。べ。し。願。て。い。え。く。對。面。せ。し。め。ば。
 い。と。過。慕。し。く。さ。る。程。ふ。今。宵。の。か。く。閑。譚。を。し。と。漸。傍。の。之。被。さ。せ。し。ひ。



秀吉播州の
諸産を
安土の城へ
参候す

巨開殿も秀吉を招かざりし虎顔いととらるるごとく。宮苑前よりこれ
 来しと開も酷暑の首より。今涼をの尾まぐ。忠勤まをく怠りあぐ。か
 遠くと登城せしこと。予が満足うらりなり。先皇よと扈後に命とて金盃を
 盤をうみぐりひ。因伯二川の奇を猛我とはぬ。かや聆しりこれ。朝
 登城ゆるすと。疾瀾に逆びく。拜謝を賜ひぬ。借も秀吉を遠遭の登城
 ハ。皇怒をなす。名類多たふりて。八声の難と齊一。奉行を下。梓して齋
 體を以。其品くを酒中。謂ばも。國久の沖太刀。一口上右の報子。二子。五。五。蜀
 の綾羅二百幅。西國産の鞍馬十匹。兎。兎。紙。三百葉。室津の粗草二百枚。
 明石の干。彌。子。箇。野。里。の。襦。袢。敷。百。口。毛。紗。の。踏。鞢。敷。飾。摩。の。指。深。尾。上
 の。松。露。か。ど。つ。入。奇。品。其。真。あ。の。く。三。千。疋。都。て。香。製。の。鞞。脚。盤。に。漆。
 く。こ。ま。を。載。せ。彼。率。軍。に。扛。擔。す。る。掩。巾。の。近。ハ。雲。の。野。不。萌。子。子。是。其。真。也。

り多く。心懸に掛行物奉へたる。沖門内。小入果れと。後より。扛出を。彼率へ
 山の麓の洞進。下に足と。搦く。イ。イ。イ。右府。遠小。夫。吉。より。沖。後。より。ひ。嘸
 大量の花。茶。を。箱。も。る。もの。こと。情。大。な。れ。を。士。欲。祝。よ。と。大。笑。し。ひ。項。を。抱
 して。お。ま。り。ま。り。た。右。に。秀。吉。出。仕。し。た。れ。沖。後。食。意。く。て。吟。若。藤。小。波
 岸の画軸。大海の茶。筵。を。も。く。ふ。莊。嚴。ら。せ。陪。僎。も。法。く。個。に。六。帷。任。ハ
 右府。多。づ。う。沖。兼。を。君。ト。賜。賜。り。その。後。く。さ。ぐ。の。沖。門。譚。河。さ。せ。れ。
 歸國の沖。拜。謝。し。ま。さ。る。村。國。次。の。短。刀。を。賜。置。る。是。ハ。又。彼。後。より。秀。吉。河
 かく。拜。領。み。し。恩。意。を。謝。し。沖。拜。謝。ま。じ。く。同。臘。月。廿。六。日。姫。路。を。當。し
 て。を。帰。ら。せ。ら。る。

織田教。父子。延。成。田。勝。頼。屬。諸。所。藩。城。

宋の太祖虎繼輝を講武殿に設け、紫貂の裘帽を被て朝ふ出
 たりを願て曰、我被服躬の如くなれども、終尚を覺る。況や征蜀の
 將亡を也と。征蜀の大將小裘帽を賜り、八是君臣の極情なり。然るに
 柴秀吉へ播州姫路に在位して、春を迎ふる天正十年、國中の諸士功
 臣、金兼く登城して、新奉の賀を述ぐる。秀吉別て、去年の軍勞
 を厚く謝し、區く小功を賞し、くれ。諸士吳口同様に喜ぶ。しるやう、
 愼美の目を見、安座し、金骨銃箭を俵しむる。眞加に於ては、
 不かり、速く彼を不出馬し、ひ。兎傳に、これに標在、秋に退る。さ
 と細めたるほど、秀吉柴海が、續氣をつと、これふを奪ふる事、の此、
 り。安去殿、舟の君、達於、次、九、秀、務、君、の、遠、春、具、是、の、被、初、く、ふ、今、諸
 勇士の細め、不、信、せ、秀、務、不、初、陣、せ、せ、兎、傳、の、歌、挽、を、征、伐、と、し、と、

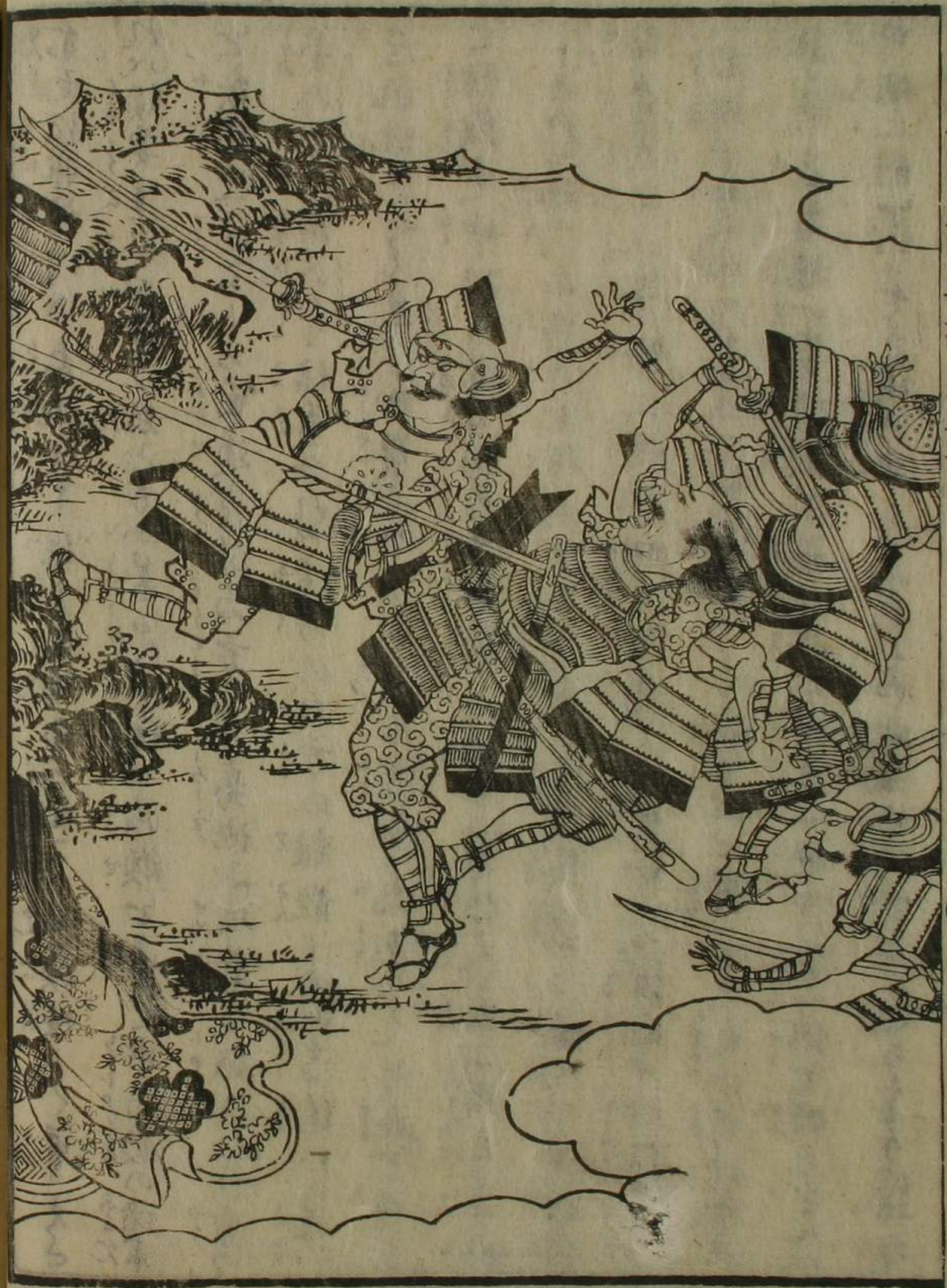
もうまに衆士、続、欽、ひ、登、く、御、准、依、と、く、と、く、一、万、不、千、の、名、士、を、奉
 一、正月、廿、八、日、を、り、く、姫、路、を、り、ち、起、思、山、小、着、陣、し、て、翌、日、進、に、
 推、進、せ、極、本、出、を、去、ち、後、舟、添、石、橋、門、を、攻、恠、す、逆、小、城、を、搦、破、り、
 逆、池、水、を、を、り、焼、拂、す、く、あ、ら、く、姫、路、に、歸、城、す、存、び、中、國、を、征、伐、せ、
 二、更、なる、處、に、安、去、の、飛、御、到、来、せ、事、へ、遠、春、信、別、の、大、守、不、
 義、島、本、君、後、仲、の、後、亂、し、て、世、を、信、別、不、居、城、せ、り、遠、春、信、別、家、に、馬、
 方、と、なる、に、り、武、田、勝、頼、征、伐、と、て、右、府、所、父、子、二、月、上、旬、甲、州、
 秀、河、を、せ、り、を、歌、挽、の、諸、城、を、攻、め、に、武、田、退、退、或、ハ、降、り、て、
 此、よ、過、り、遠、中、去、ら、く、秀、吉、に、兵、馬、を、練、く、相、等、す、甲、州、
 終、く、大、志、に、中、國、征、伐、の、舟、出、馬、なり、と、若、る、を、秀、吉、舟、所、
 の、思、考、なり、君、所、出、陣、す、ま、は、その、馬、を、て、安、岡、と、自、國、
 産、司

して在らざるや急之衝勢に恭候まゝと淡野重田其餘の諸士を
 悉く西守にせしめ、後者には加藤後清の勇兵二百餘人を跟隨之、三月十一日
 せりて、播磨川非路を渡是せり。却説、小糸甲信野後の大守、武田大勝、大
 夫、信入道、信玄、日本を變の猛將にして、英名四海に轟き、過日、天正元
 年の四月、冬川の陣、小糸を攻め、其子勝頼、世業を継ぐ、四國の大守、た
 れども、長坂、味方の倭兵を愛し、魚行、日々に播磨に、講和の志、長これを
 懇款、殊言、それども、更に用ひ、むと、是ふ、つゝ、質、兵、漸く、を、ご、り、計、邪
 の、事、頼、を、りて、集、族、を、討、め、河、縮、ら、み、繪、小、亡、國、の、兆、な、れ、忠、臣、功、を、し、れ
 を、惜、り、馬、場、山、懸、門、後、妙、ハ、長、藤、小、糸、に、死、死、を、其、の、を、な、り、領、國、の
 諸、士、庶、民、多、勝、頼、が、邪、行、を、憎、み、別、心、を、な、ま、ま、か、る、中、に、統、て、信、頼、
 本、曾、の、領、を、た、馬、頭、義、局、ハ、武、田、家、に、二、の、幕、下、に、り、が、勝、頼、の、を、道、を、恨

疎ト野心を養ひて、武田家に降せんと、苗木久吉、勝の佐人、小属て、波卓に
 討り、降参を預ひ、甲州征伐の魁、せんと、毛、を、り、て、波、卓、の、大、臣、中、將、信、忠、
 遠事を又に、詔、へ、を、信、長、悦、喜、し、か、つ、も、中、ハ、義、昌、が、真、偽、を、あ、や、ま、を、
 人質を傳へ、期盟を固ふ。若して、謀、成、の、準、儀、を、み、た、備、又、本、曾、の、誠、中、に、
 千村、左、兵、衛、と、り、つ、も、の、河、に、り、が、逆、念、を、り、て、甲、府、に、走、り、義、昌、謀、殺、と、告、げ、
 る、小、糸、勝、頼、大、小、驚、恐、し、て、武、田、元、馬、助、神、保、治、が、補、に、七、千、餘、人、の、兵、士、
 を、授、け、不、日、に、本、曾、を、攻、段、し、義、昌、預、め、期、し、た、れ、バ、吉、居、董、半、の、殿、百、
 に、後、捕、一、人、小、勝、頼、を、討、つ、武、田、の、二、將、を、逃、返、と、告、ふ、お、い、く、四、弟、勝、頼、
 せ、ま、ら、く、懐、怒、小、堪、む、り、て、天、正、十、年、二、月、二、日、嫡、子、右、兵、衛、信、勝、孫、六、入、道、信、連、
 と、叔、と、り、て、其、勢、二、百、餘、人、を、率、し、甲、府、を、襲、馬、し、信、濃、分、守、之、野、原、に、着、
 陣、也、然、り、て、諸、方、の、城、に、を、分、ち、り、討、撃、せ、し、ま、し、伊、豆、郡、を、以、り、

比掘草の境尻の城より。多田治朝右衛門横田甚六兵衛は地
 を遮へて日教を累ね信忠卿に諸軍減率し。若村により推進て。喰堀の
 殺不を北城より。平谷の巻子陣を居る。新と所より大橋の城を食意
 く。藤河より由志守將入道宗英候も。彼所へて退散し。たれ。河尻肥後
 守に。は城を占む。地小飯治一攻蕨る。後。に。河尻の城を穴山入道梅吉
 の勝頼を深く怒む事あり。遂に叛して。飯田家に降参し。敵討の色を顯
 したる由志守。持和田中の城をとりぬ。諸防禦過半に逃散す。軍糧の多く
 飲とる。これより。て。田布。勝頼。飯治の陣。上。の。兵。も。在。得。以。殘。兵。三。千
 何人を獲ぬ。甲州。新。府。へ。逃。返。す。これ。二月。附。日。中。將。信。忠。卿。三。月。上。巳。の。日。も
 つく。天。龍。門。を。推。治。す。是。は。東。海。道。河。上。に。七。ヶ。分。の。陣。を。置。て。見。張。系。を。本。陣。と。し。瀧。川。左。を
 水野。監。物。廣。務。左。衛。門。尉。を。魁。隊。と。す。是。を。の。城。小。推。進。す。開。き。遠。城。を

前面に非持門の急流を。兼。梅。東。西。南。の。二。面。に。ハ。峻。嶺。喰。く。深。澤。を。こ
 れ。ハ。頗。要。崖。堅。固。なり。然。れ。ど。も。小。笠。原。信。頼。が。後。頼。を。導。て。中。將。教。の。諸。軍
 を。秋。中。に。流。ら。し。め。面。道。背。落。ぬ。方。より。舊。地。小。攻。蕨。る。城。を。ハ。兵。勇。の
 多。ある。仁。科。め。新。信。盛。な。れ。ば。借。所。の。自。方。の。離。散。し。て。此。を。遠。の。一
 度。孤。城。と。せ。し。ま。く。形。勢。も。な。れ。ど。此。も。怖。く。氣。を。な。く。矢。を。飛。し
 て。防。戦。を。中。止。め。春日。河。内。守。系。保。人。候。が。二。百。餘。人。ハ。既。小。我。死。と。覺。那
 し。た。れ。ば。面。門。の。城。戸。を。推。開。し。面。左。右。不。肯。以。突。敢。し。飯。田。の。勇。將。廣
 勝。義。團。平。八。兵。衛。尉。に。謀。合。烟。火。を。飛。し。て。我。ひ。り。遠。响。中。將。信。忠。卿
 ハ。背。落。の。方。へ。向。せ。る。が。城。中。嚴。く。遮。り。を。齎。り。自。己。程。以。馬。成
 經。を。麻。角。堀。一。重。擊。破。り。雜。刀。把。り。自。軍。を。標。を。遠。一。城。を。破。ら。し。ん。ば
 甲。信。二。國。と。い。は。る。獲。ぬ。平。ら。く。と。す。攻。陷。せ。快。進。め。と。嘆。る。を。り。に。指。揮



小山田信繁
情兵を容て
勝頼の陣より
人質を奪返す

によりて甲州の發動ありてなれば。一統軍家の門も妻子を伴て零
 准後たるの。かれは軍儀に更にかりし機含う。傍頼の嫡子も亦信
 勝正率領に十六歳迄育かせる柳頼花領兼相もとも最悍なる父の
 前に進み出。梅花の脣濡して。噫塞しや武田の武威自軍の城より
 織田のため不段陥され當家の滅亡抱せりぬ。天運盡く戦場に死せ
 る武門の平生勇士の望むところには。然るも居城を遷して。山若林野ふ
 身を躲し。狼狐ととも名代汚され人の朽滅さるるを。とてや武運
 地ふ先祖より。相傳つるを柄の續を燒棄。漆く脱けりぬ。と粟一出るを
 傍より。真田安房吉昌者。佐川上田と別。傍行りて言々を申す。太府殿のあが
 したち。繪大將の勇氣ありて。獲せり。くいつとも。ま。所生害の期ふあり
 死に難ふて。か易く。生に易く。似く最難し。一處此地を所遷をありて

乃臣が城居る。上州吾妻に投せし。運運の時を待る。と。家名を相續
 あらんことを。先祖に對して。報答の。と。吾妻の城。八要崖固牢。を糧。是石
 もま。多々。なれば。取。二年。の。窄城。易し。東西。ふ。武田。の。餘額。を。良。め。愉。使
 一。我。して。會。誓。の。恥。を。吾。人。こと。昌。者。が。方。寸。に。こ。ま。あ。り。ぬ。其。上。其。瑞。小
 室。の。女。城。を。持。固。り。て。隔。され。ば。これ。ま。ま。自。方。の。帮。助。と。な。れ。り。清。父。子。登
 く。け。府。を。遷。る。吾。妻。の。城。一。所。拊。近。あ。ま。と。最。深。切。く。保。め。ら。る。ふ。と。傍。頼。と
 け。め。く。安。途。な。し。と。う。は。吾。妻。へ。趣。く。登。り。と。く。ま。昌。者。を。彼。城。に。使。り。し。
 し。窄。城。の。准。後。を。せ。せ。せ。り。傍。頼。妻。子。從。頼。を。伴。供。し。吾。妻。の。城。へ。赴。り
 人。と。輜。輿。車。馬。を。調。の。ふ。所。一。部。内。の。城。を。小山。回。る。清。流。信。越。あり。これ
 を。障。へ。く。回。と。く。と。州。も。君。の。領。國。な。れ。ども。大。祖。君。新。元。二。り。連。綿
 と。起。業。の。地。と。る。甲。府。を。棄。て。外。子。播。る。た。處。を。我。領。地。と。る。初。月。こ

と要産嶮し三城廓なれ。右今をく上野まで零をうたに乃ふ産め。
那月の懐より到るをのふく款を防むせのひき。若く怖るるゆら下と。
は保むる其心々。この信誓ハ既ふ織田家以属し。今務頼が首級
抱く。若くせんとおもひし。甲州の地を出さる。之新の款に計りし。
此一言を聆く。務頼心惑ふ。使し。長坂長岡。同合を討ふ。
响し。これ長坂を中。其意を奪う。務頼も若くし。真田の當家の
幕下なれども。僅に二代受保するの。小山田ハ譜代の右先にして。
の家方なり。まづと吾妻の地國より。那月ハ。右自剛。他國に行せむ
らう。登く那月。同をのふと。誠しや。不理を舒かれ。愚も遠城。
忠義の真田が約。背れ。非賊の小山田に同意。運の渡。滴こそあ
さりけ。既に落行。これ不味。本曾義昌。人質を。め。謀叛

み。たる者の人質。二百餘人と。焼殺。小山田。人質十餘人。自分。
室伯母妹。棄て。死。人。二十餘人。を率。伴。那月の地。赴。然。
小山田。左。流。佐。先。達。那月に。歸。軍。城。を。准。備。
日。那。務。頼。那。月。を。死。務。頼。が。深。む。小。松。の。郷。に。陣。を。取。
侍。其。間。右。大。臣。信。長。公。の。岐。阜。城。中。小。ま。し。く。た。る。が。信。忠。卿。より。使。者。を
もつ。軍。の。次。身。を。び。に。赤。に。科。信。誓。毎。が。誠。を。愧。る。右。府。大。小。護。を。
ひ。これ。を。岐。阜。山。下。の。長。柄。河。原。に。旗。門。せ。る。活。り。た。る。が。小。信。忠。卿。の。旗。
を。う。ち。費。甲。府。小。入。軍。し。一。条。彦。人。が。館。を。と。これ。を。本。陣。と。定。め。れ。武。田
家。故。老。の。猪。勇。士。を。或。の。殿。投。り。或。の。降。らせ。甲。信。後。野。於。こ。織。田。家。に
魔。う。ぬ。ま。い。り。さ。る。が。轅。門。小。市。を。か。り。備。又。務。頼。主。後。小。松。の。郷。小
澤。留。して。小山田。が。途。今。や。来。る。と。六。七。日。を。待。と。り。也。更。小。其。沙。汰。あ。る。を

土屋惣藏

憤馳

跡部大炊助

を射殺す



こそ。素より叛て、信繁なれば、鶴が瀬の那處なる藤子の殺不に柵を結び、
 防索の准儀を疎重く設け、然して其夜の月落る刻、頼朝が陣小潛
 投り、自己が人質に出し、是より妻子を奪ふべく帰る。頼朝それと知る
 よりも、發達をまじく願志を發し、罵り叫ぶと悔みを遅く。今更真田が
 後約を思慕し、約納まじく退さる。府中を出るその初、五百餘人の從者
 ありしもの隙、ふろ落共て、今僅に四十餘人ぞ残置ける。中にも悪さの
 藩代の寵臣長坂、海部の友人なり。主君の果運を憂うて、いつ夫とるに
 や。又、さうなれば、適をまじくと去る。惣藏弓矢、推把追紐々々。傍流を死
 杜、陰に逃れ、逃げ、後身せ。それとつるより、惣藏、膝さへ、持てる弓矢を、指
 へ、地放さ、誤さ。大炊介が首筋を、領の下まを射抜る。馬より落るを
 征侍て、首を斬断ち、帰れ。傍頼、聊、願を、轉け、遠く、去る。適を、通る。

恥被る間、小生、害せんと、四十餘人の至儀が、まご宵多に、三月十日、田野の郷
 へ、退さる。後、小食、田家、藩代の、忠臣、小宮山、内膳、正といふ者ありし。海部、長
 坂と不和なる儀、見えて、遂に、傍頼の、不興を、うけ、窶く、の身と、る。在り、若、不
 遠、遭、織田の、大軍、甲州の、地、小丸、入して、勝頼、危急と、聆より、も、内膳、一個
 蹟を、慕ひ、田野の、郷へ、來り、視ま。呼、窶ま。や、主君の、零相、今、稍、半
 飯の、準備と、見え、く。時、小膳、ての、焼鍋、ハ、若、令の、釜、にも、湯、を、入。酒、を
 かけ、に、納ま。巴、屋、惣藏、出、迎ひ、連、ふ、面を、觀、合、せ、く。丸、石、の、入、り、を、伺、も、る
 へ。要、討、ハ、悲、嘆、に、沈、ま。が、内膳、去、る。ふ、ち、響、ひ、小、長、去、來、事、論、し、く。
 若の、缺、藉を、被、り、より。時、前、を、待、ち、河、和、解、せ、ん。宜、使、と、や、と、暇、日、を、待、ち
 甲、斐、も、か、に、遠、遭、の、落、着、切、め、く、の、り、に、河、最、期、の、所、供、せ、ん、と、推、察、せ、り
 遠、旨、よ、り、に、詞、言、ま、へ、と、聆、く、惣、藏、感、嘆、し。呼、金、鉄、の、忠、臣、を、腹、心、と



勝頼父子



勝頼父子
没落を極く
小官山
兄弟
孝忠を
全ふす

勝頼父子

おりふ意の事の遠期ふ及びく意く。逃駆きたるその中に。缺落を被る
 身みぢりも。主君を慕せぬと。其忠信を感されぬ。故に涙の止る期なし。
 實ふ情り。喜む。悲歎ふ。門下を熱の泪混して。受ける機会か
 ら。内儀が身又七弟。同く黄泉の供せんと。此地ふ来りて。預入る。傍頼
 て大に歎び。よくも僅ひ。忠兄義弟。快呼容ふ。詞は。兄のありつ
 に。跪く。内儀弟と。願え。それ。悔る。胸某許に。老母の勅。遺頼
 一。ふ。何と。此。未り。忠義。然ること。なり。とも。一。身。より。忠
 孝。全。する。律。あ。それ。兄。弟。左。右。不。祥。別。忠。孝。二。道。を。下
 人と。我。の。主。君。に。最。期。の。安。供。一。舎。身。の。忠。を。兼。人。と。汝。の。老。母。を。養。物
 して。兄。の。孝。義。を。兼。ふ。何。と。や。浩。る。例。證。の。源。延。尉。の。臣。家。珍。本。爲
 井。見。身。が。故。事。も。あ。る。その。を。汝。快。く。遠。地。を。去。孝。を。竭。して。老。母。成。養。ひ。

家名をも亦相續せよと。説教する。又七弟兄の作せし。然る事。な。く。老
 母も。深く。主君の。清身と。慕ひ。ま。つ。せ。喃。又七兄の。孝志。を。り。と。ふ。汝
 ら。孫。と。汝。も。武。田。の。血。子。と。し。又。汝。の。清。最。期。も。ま。つ。ま。つ。志。恩。の
 罪。難。う。び。右。を。滅。遠。て。その。後。ふ。孝。を。竭。と。人。の。道。なり。母。の。回。野。に。身
 を。過。せ。六。唯。一。乃。木。の。杖。わ。き。バ。老。を。授。け。に。於。是。れ。り。汝。の。速。く。回。野。不。到
 里。主。君。の。清。身。速。く。見。徹。よ。と。作。せ。汝。け。く。兼。り。一。に。是。非。清。供。を
 と。願。入。ふ。と。傍。頼。ま。し。く。感。信。せ。られ。躬。奉。養。る。勝。頼。と。共。ふ。死。死。を
 一人。以。義。志。補。妙。ふ。何。り。ぬ。ま。と。其。の。忠。の。ま。つ。て。孝。ふ。有。たり。今。又。七
 が。身。に。就。て。予。が。恃。む。面。も。一。事。あり。武。田。の。家。運。既。盡。て。若。無。父。子。自
 害。せ。バ。武。田。の。家。名。の。滅。せん。こと。嘆。さ。る。も。猶。餘。り。あり。今。此。よ。は。つ。つ。
 伯。母。が。養。一。個。の。甥。あり。み。よ。と。七。弟。を。用。儀。家。名。相。續。せ。せ。し。汝。命。を

全して真田昌幸が許小判り。我遺言傳所せ物をも遠去田の家。
 新さるやうに料理す。予款の満是まかり。汝も忠志を堅ふして真田と
 供にちりつを悔さ。忠孝共小令さうべや。是勝頼が最朝の供ふ百倍
 ましうる功なりと。理を竭されく又七弟も。君命吾背に道なけよ。止む
 事なえぐこれを受へ。遺帖と初子と成決定に請執りし。も。君先
 諸友に離別を告再老母が許小返り。怪しに後小幼子と老母を撰納身を
 やりしてと別吾妻へ流し。忠孝全保の勇さなり。勝頼今心寧
 くと。後お同も嵐ふつ。きく所も探太鼓。頼く小山田信繁が。安内な
 く。おに投する。織田家の先遣龍川。河尻雲霧の像く推進る。胸小
 胎進る。出馬場信房が。遠言ふも。當家危急の期。おを。く。歌を拒
 抗地。天目山こそ究竟なれと。棄く。残く。い。い。快。那山。一。振。登。さ。る。と。

初め小笠原同意し。山梨那田野の奥なる。天目山。小退投たり。亦もい山
 二條の細徑ありと。い。とも。樵史の通ふのまれば。大軍競く。登り。く。歩
 卒の素走るるを。ゆるの。そ。右。ハ。誠。く。る。絶。壁。は。し。く。徑。に。勝。た。る。急。流。は。り。
 流出して。茶。路。を。遮。る。後。小。究。竟。の。絶。處。な。れ。バ。馬。場。信。房。も。武。田。の。家
 運。を。初。こ。を。り。ゆ。と。未。前。に。案。り。預。て。主。膳。に。教。令。して。天。目。山。を。死。場。と
 遺。帖。せ。り。ふ。山。梨。郡。分。れ。ど。も。慶。徳。院。の。公。代。初。小。馬。さ。り。と。る。事。三。十。余。丁。諸。小。勝。る。河。あり。此。河。を。流
 て。慶。徳。院。に。入。る。寺。の。山。の。中。殿。小。や。り。此。山。越。して。七。里。を。行。り。内。の。岩。殿。取。り。う。り。山。の。大
 木。岩。石。や。く。右。ね。多。く。生。茂。り。人。の。り。暴。布
 り。今。の。度。不。り。して。勝。頼。主。従。死。せ。と。い。ふ。

勝頼主従戦死。天目山。一馬秀吉。説降。

一抄の水。十人の渴を止治せり。米。蓋。の。油。の。長。夜。を。明。さ。ふ。是。く。は。と。い。ふ。と。

も。方。僅。武。田。家。の。四。十。餘。人。義。氣。激。流。を。遮。ふ。危。な。れ。バ。後。田。小。橋。く。款。を
 侍。ふ。み。ど。り。怖。處。の。人。や。然。れ。ど。小。城。田。の。先。進。小。山。田。が。子。の。素。因。小。連。

て天目山と推提園を。城を作りて軍威を顯す。然るも決死の氏田勢とてし
も驍傑くものなく。先敢卒を遣はさん。河部加賀守。秋山氏。同孫。又并
小山田平左衛門。同孫。助。敏友。依。後。日。乃。六。人。正。一。文。字。以。藤。下。里。川。小
當。て。款。せ。す。ん。それと着より。河尻與右衛門。自。勢。二。子。條。人。小。指。揮。せ。し。川。を
流。して。攻。寇。を。せ。す。涉。る。と。着。り。も。六。騎。一。渡。に。給。共。と。り。二。千。餘。人。を
そのと日せ。湯。ま。く。ら。り。に。北。殺。し。け。ま。六。遠。猛。風。少。や。怖。ま。な。ん。た。右。へ
揆。と。推。流。さ。す。那。岸。小。あり。一。瀧。川。左。を。それ。許。を。み。と。横。陸。り。死。曝。布
の。岩。う。つ。像。く。面。左。右。不。回。に。翻。る。菟。ま。穴。河。部。秋。山。海。は。ま。ま。く。激。し。い
よく。猛。り。と。起。起。鎬。脱。斬。外。し。た。る。血。骸。小。白。浪。と。ち。ま。ち。来。に。愛。し。流。を
和。見。の。秋。風。ふ。吹。流。さ。す。龍。田。の。河。此。紀。業。散。布。を。り。り。り。六。勇。此。小。列。戦
る。と。一。と。新。の。如。く。り。り。と。い。と。も。活。活。な。れ。ば。一。是。ま。ら。ん。澄。く。味。を。く。と。な

戦死と遂平ぬ。勝小。ま。る。河。尻。龍。川。與。呼。ぶ。攻。登。る。勝。頼。く。れ。を。着。と
を。う。く。太。刀。赤。振。る。魁。を。ま。い。今。こ。を。父。ふ。ま。く。ま。と。と。嫡。子。右。平。源。の。位
勝。生。年。二。つ。つ。十六。歳。最。英。装。に。お。扮。て。驀。地。に。突。て。下。る。土。屋。忠。彦。位
呂。八。濂。金。藤。の。弓。推。把。す。法。外。秘。法。つ。る。瞬。く。際。小。十。八。人。の。款。せ。射。例
し。前。子。盡。ま。た。た。も。ま。た。右。刀。印。を。脱。し。龍。籠。の。雲。柱。鳴。を。猛。威。を。費
し。石。小。焼。を。う。た。に。刺。し。山。谷。方。僅。や。崩。れ。ま。る。と。疑。ふ。と。り。に。烈。戦。る。正
こそ。小。繼。つ。く。秋。山。源。藏。金。丸。助。六。多。田。新。藤。同。南。助。小。官。山。内。膳。小。系。丹
後。也。秋。山。紀。伊。守。同。三。十。希。温。井。常。隆。助。小。蓋。原。下。徳。吉。同。惣。十。希。伴。刑
於。少。補。岩。下。右。左。を。侍。着。後。安。西。平。左。衛。門。其。利。米。女。西。宮。儀。部。右。根。大
根。安。田。十。希。左。衛。門。河。村。又。左。清。其。外。大。龍。寺。の。藤。南。和。尚。その。身。子。圓。庵。を
る。この。小。寺。又。官。健。小。山。若。源。彦。山。下。空。助。水。井。小。助。推。名。新。益。淺。浪。右

豊臣記五編巻之四

三



田野の天目
山をかいく
武田主従
末期の合戦



去後、自後四十有餘人、岩府、樹股、以之、露、石を飛し、木を抛、落し、心志
 此につく拒抗、るる由、石、水野、倭、攻、便、で、禁、一、氣、と、逆、敵、る、時、小、瀬、門、一
 益、八、軍、慮、小、賢、之、勇、士、な、れ、甲、府、の、隊、人、過、半、去、清、に、素、因、を、天、目、山、の、有
 路、の、方、より、攻、躋、す、為、院、教、百、餘、半、蒐、く、際、際、河、を、せ、び、逆、攻、せ、る、了、得
 以、獲、之、武、田、の、勇、士、最、後、の、敵、に、防、禦、の、術、つ、き、運、命、今、に、これ、を、を、り、と
 て、去、屋、秋、山、小、宮、山、橋、頼、父、子、の、最、後、を、同、護、し、心、靜、に、壯、烈、ら、せ、四、十、六、人
 殘、り、な、く、會、一、船、小、我、死、し、る、り、時、小、橋、頼、三、十、七、才、法、馬、と、慶、徳、院、殿、頼、山、勝、公、と、の、二、元、
 勝、頼、の、備、去、の、狗、母、聲、敵、防、頼、重、と、敵、殺、し、其、女、を、
 亡、國、の、子、と、い、ひ、を、一、傳、揚、年、十、六、去、屋、慶、義、女、七、才、也、
 を、提、直、以、甲、府、へ、饒、里、々、れ、信、忠、御、實、檢、あり、て、又、右、大、臣、の、行、つ、遣、る、
 遠、眺、を、を、に、信、長、公、の、信、則、根、羽、ま、を、出、陣、あり、し、が、橋、頼、父、子、の、敵、を、所、獲
 へ、を、獲、る、る、り、に、款、び、い、ひ、諸、將、の、軍、功、を、所、感、あり、を、れ、より、飯、田、へ、所、陣

せ、敵、將、を、れ、勝、頼、信、勝、信、豊、信、盛、四、級、の、敵、を、東、都、に、の、せ、せ、く、敵、門、に、集
 ら、せ、然、し、て、同、月、十、七、日、高、遠、の、城、へ、入、所、な、り、め、所、父、子、對、面、し、る、り、
 其、の、間、に、美、田、安、房、吉、昌、香、八、勝、頼、父、子、を、迎、客、す、牢、城、を、入、と、初、め、
 かの、先、達、て、若、妻、に、退、じ、准、備、を、む、く、侍、と、り、小、宮、山、又、七、年、其、女、を
 奪、り、て、適、行、勝、頼、が、遺、帖、を、出、し、小、山、田、信、繁、が、逆、心、を、天、目、山、の、實、情、を、
 以、て、洞、と、共、小、禪、を、も、昌、香、源、く、警、嘆、す、あ、ま、く、の、悲、痛、に、院、し、後、悔、を、
 とも、冷、み、け、し、武、田、再、興、の、源、慮、を、め、り、し、ま、う、信、則、へ、移、ら、ん、と、若、妻、の
 城、を、穴、山、小、助、小、祐、再、置、上、田、の、城、へ、移、り、又、子、謀、畧、小、心、を、傾、け、款、を、務、め、
 の、准、備、を、な、す、浩、る、と、恐、小、織、田、の、大、軍、後、遠、之、の、加、勢、を、念、せ、く、十、二、万
 餘、騎、を、十、面、小、費、列、候、息、を、次、せ、び、攻、る、と、い、ふ、智、勇、絶、倫、の、美、田、又
 子、奇、謀、妙、計、か、る、る、が、兩、を、そ、う、て、拒、抗、る、り、を、四、方、の、遠、を、り、か、た、ら、ふ、

獲亡すること真誠知らば。数度彼軍に及びては。任在大に憤烈なり。蓋て
 奮勇を振るの志然りと在り。浩る處に羽翼秀吉將軍出馬。折懸
 旁うの秀勝具足親に兒湯の軍務利せ。言状をて。赤旗にたれ。

信長公欣悦せしき。是に對面何せしれ。甲信の軍を不憚らき。次小吉田
 が防戦の始終を羽翼に告む。城攻めゆと伺ふも。秀吉要時沈吟せ
 實に甲陽の美田父子。智勇を雙の若さなり。然るも主人の光遠をも
 認決は居候。小勢り降参もせ。君一敵討はせしる。言熟くこれこそ
 こそ必竟不存の何るならん。那般の款。向うせりて。自軍を損ひ。

と六軍中不忌とつらなり。宜しく和せり。降参せしめ。美田が如き英雄
 と。而自方とす。しつひ。向後の所幣補大なる。乃居られた料理を
 人。美田の事。只官に所任せしむ。と。恩徳を言状を。信長公不

棄かれども。謀士の勅め。然止せり。秀吉に同意し。これよりて。將は
 秀吉。得しる。智勇をわし。逆に真田を降服せしめ。右大臣を勅
 せし。せり。武田の家督。真田父子が本領。安徳の朱印を乞。受再び昌幸
 に對面して。朱印を遞与。右大臣の。徳意を信せし。小野所。えられた。昌幸
 喜悅。斜る。子源。次。希。信。業。を。伴。ひ。秀吉に。隨。ふ。所。本。陣。に。参
 降し。厚く。所。謝。報。せし。あ。は。れ。り。次。男。源。三。希。幸。村。ハ。正。年。十。六。歳。ふ。し
 也。蓋。世。の。器。量。補。天。の。才。智。あり。た。れ。秀吉の。相。の。凡。り。さ。る。に。威。服
 ぬ。し。逆。ふ。若。長。の。物。を。信。せ。り。是。小。お。い。く。甲。信。一。圓。小。平。物。け。し。金。七。れ。く
 物。を。著。し。恩。賜。せ。り。個。々。の。腕。川。友。を。將。監。上。野。一。羽。を。び。不。備。明。依。久。不。孫。の。尻
 與。名。清。甲。信。を。た。ね。も。り。肥。後。の。内。更。科。を。井。上。三。郎。を。福。子。の。善。信。の。し。む。三。郎。を。福。子。の。善。信。の。し。む
 其。外。軍。切。の。次。中。に。より。あ。ち。り。く。恩。賞。何。せ。し。れ。本。曾。在。馬。頭。我。昌。小。不。便

安達の起程を述べると中に瀬川一益の遠達の勲功莫大なりとて甲州
 畠約小産牧たる七寸に餘る積足あり毛猪さるがら朱の條く。國雲長の
 赤免馬に警弊これハ海老嶋と号け。最秘義の逸物なりしを。右府自ら
 一益を召させしむ。汝数年の功功是なる。恩賞をりて報えしむしが。遠達
 ハ別々の号あり。遠達是に跨りて。入國せしと命せある。是より瀬川上野
 なる。麻橋の嶽小居住して。國本小條の殿守たりしむ。斯の如く甲信と武後
 遠達と七ヶ國政道のころに命賜され。四月二日信別も遠を併發駕あ
 り。翌日甲府に入らむいぬ

繪本豊后勲功記五編卷之四終

